

壁紙の材料特性に関する注意

1 ジョイントや剥がれについて

壁紙は石膏ボードなどの下地材に有効巾でジョイントして施工するため、必ず継ぎ目が生じます。壁紙の仕様やデザイン、使用環境によっては継ぎ目が目立つ場合がありますのでご了承ください。また、壁紙の伸縮による目隙や経年での剥がれが生じる可能性があります。

2 変色について

壁紙自体は外的な影響を受けずに変色することはありません。紫外線による色褪せや、施工環境・使用環境によって変色・シミなどの変化が生じる場合があります。

施工上の注意（一般的な壁紙）

1 下地の調整

■ 下地の平滑仕上げ

壁紙の厚みはおおよそ1mm未満であり、下地の凹凸を壁紙だけで防ぐことはできません。下地が平滑になるよう、施工環境に応じた入念な下地処理を行ったうえで壁紙を施工してください。また、ネジ・クギ類も施工後の不陸や変色等の原因になるため、突起を完全に沈め、サビ止め処理をしてください。パテが壁紙に付着した場合は、壁紙の凹部に入り込まないように慎重に除去するようにしてください。

■ 下地や状況に応じたシーラー処理

木質系・合板下地・コンクリート下地・モルタル下地に直接施工すると、壁紙にシミや変色が発生することがあります。それぞれ専用のシーラーで必ず下地処理をしてください。シーラー処理を施すことで、接着不良や変色を防ぎ、また、リフォーム時に剥がしやすくなります。

■ 下地と同色のパテを使用

パテは下地と同色のものをご使用ください。下地と異なる色のパテを使用すると、施工後に下地の色が透けて見える場合があります。

■ 下地は乾燥させてから

コンクリートやモルタルなどの湿式下地、およびシーラー・パテを施した箇所は十分に乾燥（水分率11%以下）してから施工を開始してください。乾燥が不十分な場合、壁紙の変色・剥がれ・かびが発生することがあります。

■ 浮いた裏打紙の処理

貼り替え時、以前貼られていた壁紙の裏紙が残っている場合、残った裏紙は完全に剥がしてから施工してください。そのまま施工すると目隙や浮きの原因になります。

■ 下地起因の変色等について

下地及び下地の内側からの影響を受けて、壁紙に変色やかびなどが発生する場合があります。石膏ボード下地の場合でも、木質構造材や断熱材等さまざまな施工環境要因で、明確な原因の特定が困難な変色が発生する可能性がありますのでご了承ください。

2 接着剤

■ 商品や施工環境に合わせた準備

商品特性や施工環境に合わせて接着剤の配合やオープンタイムを調整したり、部屋を暖めるなど配慮してください。特に5℃以下の環境では接着力が弱く、施工不良の原因になりますので、接着剤の注意事項を必ず守ってください。

■ 希釈・塗布量

接着剤の希釈は、接着剤メーカーの指定割合を守ってください。塗布量は130～140g/m²を目安とし、均一に塗布してください。

特に注意が必要な商品

デザインや製法、機能性などによる商品特性の違いや施工環境によって、壁紙の施工難易度は変わります。特殊な製法や素材を用いた壁紙や製品厚の薄い壁紙、汚れ防止機能のある壁紙などは、通常の壁紙と比較して施工難易度が高いため、施工費が割増しになる場合があります。各商品に表示している施工注意と以下の内容をあらかじめご確認の上、商品をご選定いただきますようお願いいたします。

■ 製品厚の薄い商品・表面がフラットな商品

間接照明の場合など使用環境によっては下地の凹凸が目立ちやすい商品です。特に入念な下地処理を行い、糊タマリに注意して施工してください。糊付け後は大ききたたみ、折りジワに注意して、上積みは避けてください。また見る角度や環境によってジョイント部分が目立つ場合があります。

3 表面強度について

衝撃やひっかき、摩擦によってキズや破れが発生する場合がありますのでご注意ください。

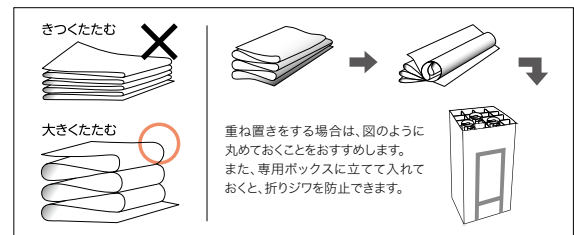
4 ひび割れについて

建物や下地の振動により、壁紙表面にひび割れ（クラック）が生じることがあります。特に異なる下地材のジョイント部分や、構造材がない部分での下地のつなぎ部分では、振動等による動きが大きくなり、壁紙がひび割れやすくなります。壁紙単体では振動によるひび割れを防ぐことはできませんのでご了承ください。

■ 糊付け後の注意点

壁紙に糊付け後、適切なオープンタイムを取ってください。施工を容易にするとともに、フクレや目隙の発生を防ぎます。また、壁紙をきつ折りたたんだり、湾曲部に荷重がかからないようにしてください。折りジワが発生し、元に戻らない場合があります。

【糊付け後のたたみ方】



3 貼り付け

■ ロット番号・施工上の注意の確認

同じ空間に施工する場合は、同一ロットの商品をご使用ください。別ロット品で施工した場合、色違い等の不具合が生じることがあります。また、施工上の注意も十分に確認の上、施工するようにしてください。

■ 有効巾について

壁紙は必ず有効巾でご使用ください。重ねるは有効巾に含みません。有効巾を超えた使用は、左右色違いの原因となります。

■ 石膏ボード下地の注意点

カッターで石膏ボードの原紙まで切り込むと目隙の原因となりますので、カットの際は下敷きテープをご使用ください。また、ボードの継ぎ目付近ではジョイントしないでください。仕上がりに支障をきたすことがあります。

■ ベニヤ下地の注意点

ベニヤなどの木質下地に重ね断ち施工する場合、カッターでシーラー塗布面を傷つけますとアクのしみ出しによる変色の原因になります。カットの際は必ず下敷きテープを使用し、シーラー塗布面を傷つけないようにしてください。

■ 柄合わせについて

柄合わせに必要な商品は見本帳に「リピート」を表示しています。リピートの値は理論値であり誤差が生じます。施工の際は、ジョイントマークを参考に柄を目視で合わせて重ね断ちにて施工してください。

■ 濃色の商品

ひっかきキズや糊の拭き残しが目立ちやすいため、特に注意して施工してください。出隅・入隅への施工の際に、硬い刷毛や布などで強く擦ると表面が白化する場合があります。表面を過度にこすったり拭いたりすると、ツヤ感が変わるおそれがありますのでご注意ください。

■ 横に方向性のあるデザイン

横に方向性のあるデザインについては、通常の商品よりもジョイントが目立ちやすく、正確な柄合わせが困難です。あらかじめご了承ください。

■ フィルム汚れ防止・スーパー耐久性

モルタル・ベニヤ下地に施工する場合は、フクレやアクを防ぐため、シーラー

5 色の見え方について

見本帳の現品見本や写真と実際の商品では、多少の色差が生じる場合があります。光源や使用環境によっても色が違って見える場合があります（メタメリズム）。また、製造時のロットによって多少の色差が生じる場合がありますのでご了承ください。

■ ジョイント位置について

ジョイントは商品の端部同士としてください。端部と中央部でジョイントした場合、色差が生じるおそれがあります。また、天地・左右を確認の上、同一方向で施工してください。特に開口部の上下への施工や、貼り足しや部分補修で残材を使用する場合、一部分のみを横貼りにすると色違いが起りやすいため、ご注意ください。

【壁紙端部の表示について】



■ 付着した接着剤や汚れの処理

壁紙の表面や廻り縁などに糊・汚れなどが付かないよう十分ご注意ください。付着した場合は、きれいな水を含ませた布で直ちに拭き取り、最後に乾拭きしてください。糊や汚れが付着したまま放置すると、かびや変色の原因になります。

■ 貼り出し確認

品質には万全を期しておりますが、念のため壁紙を3巾ほど施工した時点で商品に問題のないことをご確認ください。明らかに欠陥があると判断された場合には、直ちに作業を中断し販売店または弊社営業窓口までご連絡いただけますようお願い申し上げます。3巾以降の施工費賠償については、お受けいたしかねますのでご了承ください。

4 養生

■ 施工後は自然乾燥を

施工後は、接着剤が安定するまで自然乾燥させてください。急速に乾燥させると剥がれ・めくれなどの原因になります。

■ 養生テープについて

粘着力の強いテープの使用は破れや汚れ、変色の原因になりますのでご注意ください。

処理をしてください。オープンタイムは長めに取ってください。オープンタイム不足はフクレ等の原因になることがあります。糊付け後は折りジワがつかないように大ききたたみ、上積みは避けてください。エアや水分が抜けにくく、特に低温時にはフクレが生じやすいためご注意ください。出隅の納めの際は折り曲げた壁紙の表面からきれいな布でしっかりとおさえてください。施工後は表面に付着した糊や汚れをきれいに拭き取ってください。拭き残しがあると変色の原因になることがあります。

■ ふりまき壁紙（MEGUREWALL / 珪藻土 / 大理石チップなど）

一般ビニル壁紙とは素材が異なりますので施工やメンテナンスの際には注意が必要です。詳細は各商品ページをあらかじめご確認ください。

商品選択上の注意

1 壁紙の選定について

壁紙にはさまざまな色柄や機能性の商品があり、仕様や厚み、デザインにより特性が異なります。それぞれの特性や注意点を十分にご確認のうえ、ご選定ください。

2 防火性能について

建築物の内装仕上げに関しては、建築基準法により防火上の基準が定められており、建築物の用途や規模・構造に応じて、認定を受けた材料を使用することが義務づけられています。見本帳の商品サンプル掲載ページでは、防火性能(防火認定区分)を目安として表示しておりますが、防火性能は壁装材の防火認定だけでなく、下地基材および施工方法との組み合わせによって規定されるものですのでご注意ください。詳細は巻末の別冊資料にてご確認ください。

3 防かび性能について

壁紙工業会制定の防かび壁紙の性能規定に基づき、試験結果が0の商品に「防かび」の表示をしています。

菌糸の発育	結果の表示
肉眼および顕微鏡下でかびの発育が認められない	0
肉眼ではかびの発育が認められないが、顕微鏡下では明らかに確認できる	1
肉眼でかびの発育が認められ、発育部分の面積は試料の全面積の25%未満	2
肉眼でかびの発育が認められ、発育部分の面積は試料の全面積の25%以上～50%未満	3
菌糸はよく発育し、発育部分の面積は試料の全面積の50%以上	4
菌糸の発育は激しく、試料全面を覆っている	5

*表示は試験片5点の平均を計算し、小数点第一位を四捨五入して行う。

防かび表示商品には、防かび加工をしてありますが、壁紙単体でかびの発生を防ぐことはできません。かびの発生は建物の構造や室内環境に大きく影響されます。常に換気を心がけ、風通しを良くして、湿度の上昇を抑えてください。施工時に防かび剤を糊に添加すると、より効果的です。

4 汚れ防止性能について

壁紙工業会制定の汚れ防止壁紙の性能規定に基づき、表面に汚れ防止性能を目的とするフィルムを貼り合わせた壁紙であり、且つ試験結果が4級以上の商品に「汚れ防止」の表示をしています。

等級	判定基準	備考
5級	汚れが汚染用グレースケール5号程度のもの	汚れが残らない
4級	汚れが汚染用グレースケール4号程度のもの	汚れがほとんど残らない
3級	汚れが汚染用グレースケール3号程度のもの	やや汚れが残る
2級	汚れが汚染用グレースケール2号程度のもの	かなり汚れが残る
1級	汚れが汚染用グレースケール1号またはその程度をこえるもの	汚れが濃く残る

5 表面強化性能について

壁紙工業会制定の表面強化壁紙の性能規定に基づき、試験結果が4級以上の商品に「表面強化」の表示をしています。

等級	判定基準
5級	一見視で特に変化が見られない
4級	多少表面傷が見られるが、比較的大きな表面層の破れ等は見られない
3級	表面層の破れが明確に見える
2級	表面が破けて紙等の裏打材が明らかに見える(長さ1cm未満)
1級	表面が破けて紙等の裏打材が明らかに見える(長さ1cm以上)

上記の表面強度は目安であり、強い衝撃や鋭利なものによるひっかき、過度な摩擦はキズや破れの原因となりますのでご了承ください。

6 壁紙表面への付着物について

壁紙表面にさまざまな物質が付着して変色のように見える場合があります。特に濃色の商品において目立つ場合がありますので予めご了承ください。

7 使用環境について

高温・多湿、水濡れの環境や屋外での使用はお避けください。天井や間接照明付近など、下地の段差が目立つ場所にご使用になる場合は、厚みのある商品をお選びいただくことをおすすめします。

8 柄合わせの必要な商品について

柄合わせを必要とする商品は、要尺が無地系の商品よりも多くなりますのでご注意ください。施工の際は見本帳などの「リピート」表示を参考に柄合わせしてください。

9 パールインクやラメを使用した商品について

パールインクやラメを使用した商品は、壁紙表面を衣類等で擦るとパールやラメの粒子が付着することがありますのでご注意ください。

10 トイレルームへのご使用について

黒色や濃色の壁紙を全面に施工した場合、リモコンの赤外線を吸収し、トイレなどの機器が反応しにくくなる場合がありますのでご注意ください。

11 施工費について

汚れ防止壁紙や製品厚が薄く表面がフラットな壁紙などは、一般ビニル壁紙と比較して施工難易度が高いため、施工費が割増しになる場合があります。あらかじめ商品特性や現場の環境などをご確認の上、商品選択をお願いします。

壁紙のメンテナンス

1 一般注意事項

■ 入居後の換気

施工時の臭いが残っている場合がありますので、入居後一週間程度は十分に換気を行ってください。

■ 直射日光等からの保護

直射日光や熱風が長時間当たる場所では変退色するおそれがあります。カーテンやガラスフィルムなどで日除けを心がけてください。また、ストーブなどの暖房器具の熱風が壁紙に直接当たらないようにご注意ください。

■ タバコの煙・キッチンの油煙について

タバコの煙やキッチンの油煙などは壁紙を短期間で黄変させ、頑固な汚れとなります。室内の換気を心がけてください。

■ 薬品や化粧品類を付着させない

スプレー式の薬品(殺虫剤・塗料・化粧品など)を壁紙に付着させないでください。また、傷薬などの医薬品や口紅なども付着させないでください。種類によっては付着した色が落ちなくなったり、壁紙が変色したりすることがあります。

■ 家具を壁面に密着させない

家具の塗料やベニヤに含まれる色素により、壁紙が変色することがあります。家具と壁紙の間は空間の余裕をとってください。変色だけでなく結露やかびの防止にもなります。

■ ゴム製品を壁面に密着させない

壁面にゴム製品を密着させたり、ゴム系接着剤を使用したテープ等を使用しないでください。塩化ビニル壁紙に含まれる可塑剤と、ゴム製品に含まれる酸化防止剤が化学反応を起こし、変色等が発生する恐れがあります(ゴム汚染)。

■ 粘着テープを貼らない

粘着テープ(セロハンテープやガムテープなど)を壁紙に貼らないでください。テープの粘着剤が壁紙に移行し、変色や汚れの原因となります。また、粘着テープを剥がす時に壁紙を破損するおそれがあります。特にゴム系接着剤は変色が起こりやすいためご注意ください。

2 汚れが付着したら

■ 一般ビニル壁紙の場合

飲食物や調味料などの汚れは、直ちに固く絞ったスポンジやタオルで汚れを吸い取るように拭き取ってください。落ちにくい場合は中性洗剤をご使用ください。壁紙表面に残った洗剤は変色の原因となりますので、真水かぬるま湯できれいに拭き取ってください。

※強い洗剤やシンナーなどの有機溶剤は、変色や表面破損の原因になりますので使用しないでください。

荷扱い・運搬上の注意

1 商品受領時のお願い

商品受領時には、納品書で品番・ロット・数量をご確認ください。万が一、ご注文と異なる品番や数量の商品が納品された場合は、販売店または弊社営業窓口までご連絡いただけますようお願い申し上げます。

2 施工注意の確認

商品の特性および施工上の注意をよくご理解の上、施工をお願いします。商品の出荷ラベルには施工注意の内容を表示しています。

3 荷扱い・保管時のお願い

■ 無理な運搬はしない

商品は重量物となるため、お取り扱いの際は十分な安全確保をし、無理な運搬はお避けください。事故や怪我の原因となります。

■ 保管はタテ置きで

商品はタテ置きで保管してください。ヨコ積みや井桁積みは置き跡がつきやすく、光沢差やエンボスつぶれの原因となりますのでお避けください。

■ 高所から落とさない

商品はトラックの荷台など高い所から落とさないでください。商品の破損や怪我の原因となります。

■ 保管上の注意点

商品の保管場所は火気・水・湿気・直射日光の当たる場所をお避けください。また、商品を地面へ直に置いて保管しないでください。

■ フィルム汚れ防止壁紙の場合

日常の汚れは、固く絞ったスポンジやタオルで水拭きしてください。落ちにくい場合は中性洗剤や消毒用アルコールをご使用ください。壁紙表面に残った洗剤は変色の原因となりますので、真水かぬるま湯できれいに拭き取ってください。

3 剥がれてきた壁紙のメンテナンス

部分的な剥がれであれば、剥がれが広がる前にゴミや埃を取り除いた後、壁紙の裏に文具用の糊や木工用ボンドをはみ出さないように塗布して、十分に圧着してください。剥がれてから時間が経ったものや、劣化して硬くなったものは補修が困難ですので、貼り替えをおすすめします。

4 かびについて

かびは見た目の悪さの問題だけでなく、アレルギーやぜんそくなど、病気の原因になることがありますので注意が必要です。壁紙はほとんどの商品に防かび性能がありますが、壁紙単体でかびの発生を防ぐことはできません。

■ かびを防ぐ

かびは建物の構造や生活環境に大きく影響を受けます。常に換気を心がけ、風通しを良くして、湿度の上昇を抑えてください。

■ かびが発生したら

かびが壁紙表面だけで発生している場合、早めに消毒用アルコールで拭き取るのが効果的です(壁紙の種類によっては表面が損傷する場合がありますので、目立たないところで試してからご使用ください)。かびが大量に発生してしまった場合は、専門業者に相談することをおすすめします。

5 結露について

結露や過度の湿気はシミ・剥がれ・かびの原因となりますので、室内の換気や湿度調整を心がけてください。

■ 換気・除湿

常に換気を心がけ、暖房器具などから発生する水蒸気を外へ排出してください。特に浴室や料理時の水蒸気などにはご注意ください。除湿器や吸湿剤などの活用も有効です。

■ 通気を良くする

家具裏などの隙間に余裕を取り、建物全体の空気の流れを良くする工夫をしてください。

■ 冬の結露について

冬場は室内と外気の気温差が大きく、結露が発生しやすい時期です。また、加湿器を使用した後などは特に発生しやすくなります。こまめな換気や除湿を心がけてください。

6 その他

壁紙は日頃からある程度のメンテナンスを行いながら、使用状況に応じて5～10年を目安に貼り替えをおすすめします。

廃棄上の注意

1 残材を焼却しない

ビニル壁紙の残材や見本帳を焼却しないでください。人体に影響を及ぼす有害物質が発生するおそれがあります。

2 産業廃棄物として処理する場合

ビニル壁紙の残材を産業廃棄物として処理する場合は、しかるべき資格を有する産業廃棄物処理業者に委託してください。

3 一般廃棄物として処理する場合

少量の残材を一般廃棄物(家庭ゴミ)として処理する場合には、市町村条例に基づき処分してください。

塩化ビニル製壁紙の「∞PVC」マーク表示について

「資源の有効な利用の促進に関する法律(資源有効利用促進法:平成13年4月1日施行)」により、塩化ビニル製壁紙は指定表示製品に分類され、分別を容易にするために「∞PVC」マークを表示することが義務づけられています。「∞PVC」マークは1㎡あたりに1つ以上表示しており、目視で確認できますが、壁紙表面への色の影響を抑えるため、淡い色のインクを使用しています。分別の際は、剥がした壁紙の裏面にブラックライトを照射させると、「∞PVC」マークの確認が容易です。